



月報

# 岡崎の教育

3月号

昭和58年3月1日

編集/発行

岡崎市教育委員会

厳粛な暗闇の中で  
ろうそくの炎は輝く  
ああ 炎よ

小さな心の炎よ

おまえの炎は小さいが

おまえに誓ったものは

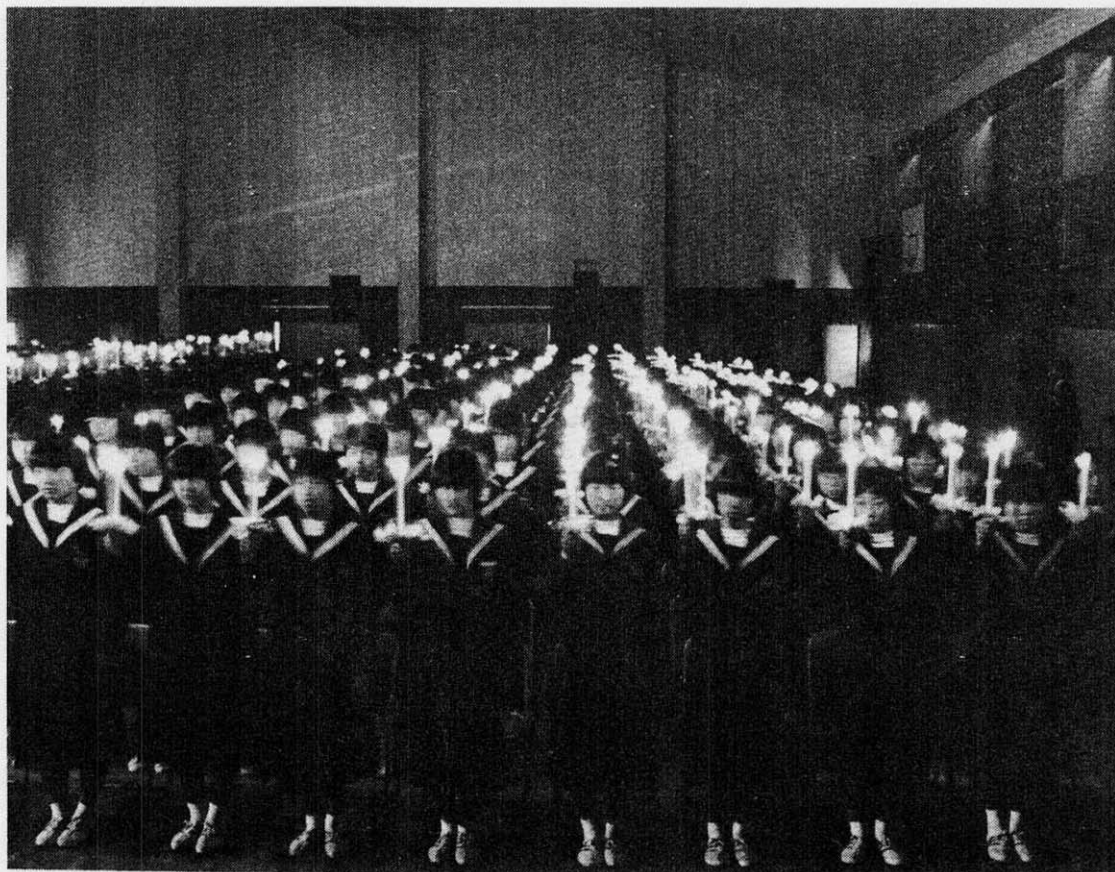
とても大きい

捧げ持つ四百十六本のろうそくが

志を立てて然えている

いつまでもこの灯を守り

心の中で燃やし続けよう



(立志の灯一岩津中)

## — 教育随想 —

## 登校しない生徒たち



石川武二

子どもは、家庭と学校と、そして、社会全体から暖かく守られて、健やかに育たねばならないのであるが、病気などやむを得ない事情がないのに登校しない子どもがある。児童相談所でもしばしばそのような相談を受ける。主に中学生であるが、内容からみて、二つに大別できる。一つは怠学非行群であり、もう一つは登校拒否群である。

怠学非行群では、学校をよく休み、その間に、家出、自転車やオートバイ盗、窃盗や万引、脅喝、異様な服装やつっぱりなどの非行に走る。この子たちは友達を誘って仲間にしようと一緒の行動をとるので、他児への悪影響も大きい。

最近取り扱った難治な（悪質と言いたくない）ケースには、父子家庭が多かった。そのある家に行ってみると、雑然・不潔、荒廃していて、子どもの逃げ出す

気持ちがるような気がしたものである。父親も情緒不安定で子どもから不信感をもたれていた。その子は自分を非常にみじめであると思っているが、それはおくびにも出さず、安易な同情や慰めを拒否し、むしろ罵倒や折檻を望んでいるかのように反抗的であった。当所の指導方針は、父親を中心に家庭を立て直し、子どもの強烈な劣等感や反抗心をプラスの方向のエネルギーに転化させることを長期展望として持ちつつ、当面は教護施設を利用して父子を分離し、両面から指導をすすめることである。

登校拒否群に入るものには種々のタイプがあるが、典型的なものは、自分自身学校へ行かなければと焦っているのに、どうしても登校できないという神経症的タイプであろう。相談所員が家に訪問しても、逃げ隠れて全く面接できないケ-

スもあり、指導のむずかしいものが多い。この子たちの家庭は両親とも揃っているのが普通であるが、父親は多忙とか未成熟な人柄のためにその役割を果たしておらず、母親は過保護か、反面、過干渉である。そのような養育態度の集積の結果として、知らず知らずのうちに子供を学校に行けなくしてしまっている場合が多い。その治療は、子どもと親に対してカウンセリング的に行わねばならないので、長期に亘りがちである。指導を焦り、強制的に登校させようとしたり、機械的に施設に入れたりしても、逆効果を招くことになりやすい。もちろん、学校の理解と協力がなければ、効果は上がらない。

さて、このような父母のどちらか欠けた欠損家庭や、両親揃っていても機能を十分果たしていない欠陥家庭は、今の社会情勢の中では、遺憾ながら増えてゆきそうである。従って、こうした登校しない子どもたちも増えてゆくと考えざるを得ない。義務教育の普及では世界一と言われるわが国で、このような形で、それから漏れる子どもたちは、すでに全生徒中の一パーセントくらいはあると聞く。在宅の重度障害児などに対して訪問教師の制度があるが、同様にこの子らの側まで行き、適切に指導を加える制度、群から離脱する迷える小羊をもとの群に連れ戻し、適応させるための施策を、真剣に考えるべき時がきているのではなからうか。

(児童相談所長)

## 南京袋のねぐら

杉田 富貴男



ネパールの首都カトマンズは、人口約四十万、海拔千三百メートル、四世紀から八世紀にかけてつくられた町並みがつづき、今なお中世の息づかいがそのままに残っている。町の中心部にあるクリスタルホテルに宿泊し、ネパールでの第一夜を楽隊のラップで夢破られた早朝、次第に明けてくる町のようなすを眺めていた私の目に異様な光景がとびこんできた。

町のまん中をつき抜ける大通りの道端に、ごみのようにころがっていた南京袋がむくむくと動き出したかと思うと、その中から目玉だけがギョロリと白い子どもが裸同然の姿ではい出してくるではないか。

大通りに出てその子どもたちに近づくと、頭ばかりが妙にでつかけて手足は骨と皮ばかりで、あかとほこりにまみれて悪臭が鼻をついてくる。かぼそい声で「ルービー」と言いながら手のひらをさしたしてくる。さらには「シーガレット」とタバコまでも要求してくるのに当惑して



—ふるさとの山河—

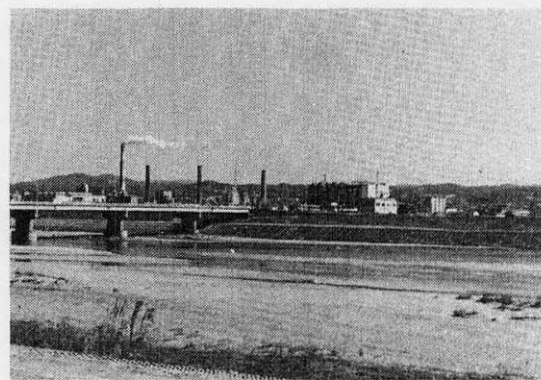
矢作川 (12)

流域生活圏

中央アルプスの南端、長野県平谷村の大川入山(一九〇八メートル)に源を發する「母なる川」矢作川。溪流から大河へと流れを変え、長野、岐阜県境を流下し、西三河平野を貫く三河湾河口までの延々百二十キロ。悠久の昔より、今日までとうとうと流れ続けている。その流域面積は千八百三十平方キロ(山地面積八十九パーセント。平地面積十一パーセント)に達する。現在本川を軸に大小の支川三十、枝川六十三の流域、それに西三河平野西部の境川流域を加えた地域には、三県二十六市町村、百十五、九万人(昭和五十四年国勢調査)が生活を営んでいる。これは、奈良県・宮崎県の人口に匹敵する。

この矢作川流域に祖先が住みついたのは、従来八千年前と考えられてきたが、上流部の足助町の馬場遺跡(縄文早期)の遺物発見や下流の碧海台地南端に所在する縄文後晩期の枯木宮貝塚の調査結果により、約九千年前とも一万年以上前とも言われ始めた。

以来、我々の祖先は、この母なる川により、時とともに様々な恩恵を受けてきたのである。しかし、時としてこの母なる川も猛威の川と化すこともあった。大雨などによる堤防決壊がそれである。だが、この自然の猛威に屈することなく、その時代の流域住民は、生活死守のため敢然と闘ってきた。こうした先人の努力により、この流域における工・農・商業の発展の礎が築かれていった。



江戸時代に興り明治初期に最盛期を迎えた舟運、また、その川舟を利用しての舟紡績。それらが時代とともに姿を消した今、矢作川の水は、発電、農業、工業用水、上水道に大いに利用されている。明治から大正にかけ、農業先進地帯として発展してきた西三河は、枝下・明治両用水の恩恵により、水稲に施設園芸農業を加え、現在も県下有数の農業地帯として存続している。豊田、岡崎、刈谷などの内陸工業、衣浦臨海工業地域への工業用水の供給、約五十万人に及ぶ「命の水」の供給など、矢作川はその流域生活圏にさまざまな恵みを与え続けている。しかし、この母なる川にも、いつしか排水による「汚染」という二文字がつくようになった。上流の業者の泥水、生活排水、工場排水による汚染化である。こうして、近年、流域住民にも「流域は運命共同体」としての自覚がようやく芽生え、上流、下流の住民が手を取り合いながら流域生活圏づくりの歩を進める段階を迎えている。

(矢作中 坂井 節)

いるうちに、その子たちの数がどんどんふえてきた。

私は一目散にホテルへとび込んだ。

(岡崎小長)

桂林の山水とへびのスープ

小嶋 明 美

桂林の山水は天下に並ぶものなし。桂林といえ、漓江下り。今は冬の枯水期。楊堤から興坪まで往復三時間の船旅。この間が漓江の景色のクライマックス。

空は澄み渡り、鏡のような漓江の水面に上下対称に映る奇峰の数々。目に映るものすべてが山水画の世界そのものに引きずり込んでいく。頬に当たる風は冷たかったが、そんな事はどこ吹く風、ただただ素晴らしい景色に見とれるばかり。

その日の夕食は、「南洋酒家」で、桂林の名物料理。何が出てくるのかな。興味半分、不安半分。薄味のスープが出てきた。あっさりしていておいしくて、おかわりをしてしまった。食べたことのない肉だどウエイトレスに聞くのだが、「サンサンチア、サンサンチア」の繰り返しでらちがあかず、紙に書かせる。漢字からの判断だが、どうもよくわからない。

食後バスの中でメニューを聞いた。サンサンチアは、とてもおいしいアルマジロの意とか。狸の肉はたらつとしていて柔らかかったが、特においしかったスープがあへびだと聞いて、全員から思いつきの喚声があがったことはいまでもない。

(大樹寺小)

# 校歌に見るふるさと



七十一号（昭和五十四年四月）から四年間連載した「ふるさとの山河」は、この三月号をもって終了する。今回の特集は、ふるさとの山河を総括し、岡崎市内の小中学校五十三校の校歌の歌詞の中によみこまれた郷土を拾い出して特集してみた。

朝に夕に仰ぎ見るふるさとの山、清い流れのふるさとの川に託して歌詞を作った先生がたは、子どもたちに何を感得させようと意図されていたのだろうか。

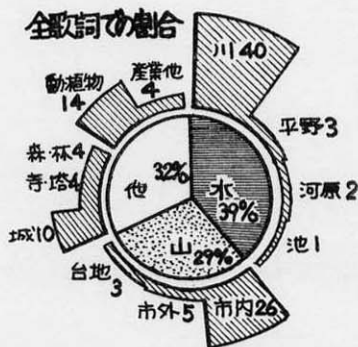
今まで全市的な視野で校歌を見るという試みとして、昭和五十一年度刊「岡崎市小中学校校歌集」〔市現職教育音楽部〕がある。そこで、本特集では、それに基づき、そこに織り込まれている様々な願いを分析してみた。

## 校歌に見るふるさと

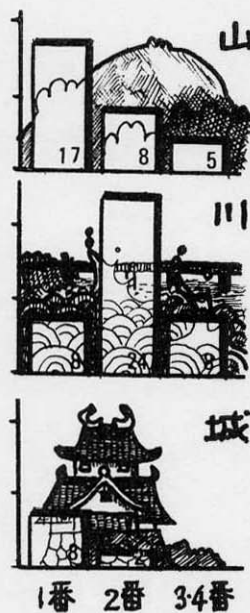
### ベスト5

- |     |                           |     |
|-----|---------------------------|-----|
| 第1位 | 矢作川                       | 25校 |
| 第2位 | 岡崎城                       | 10校 |
| 第3位 | 乙川<br>(大平川・菅生川<br>男川も含める) | 7校  |
| 第4位 | 村積山                       | 6校  |
| 第5位 | 桑谷山                       | 5校  |

## 全歌詞の割合



## どの連に何が...



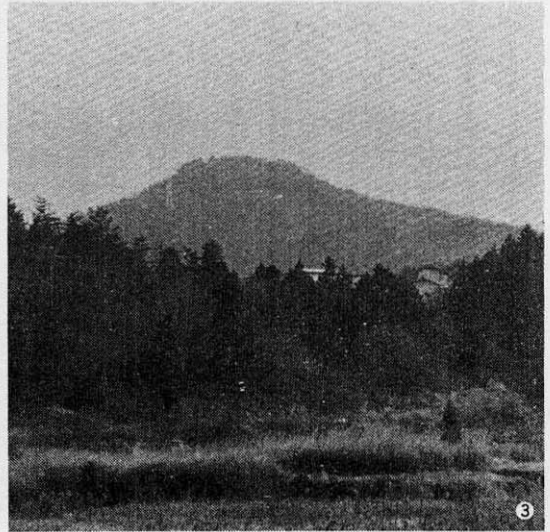
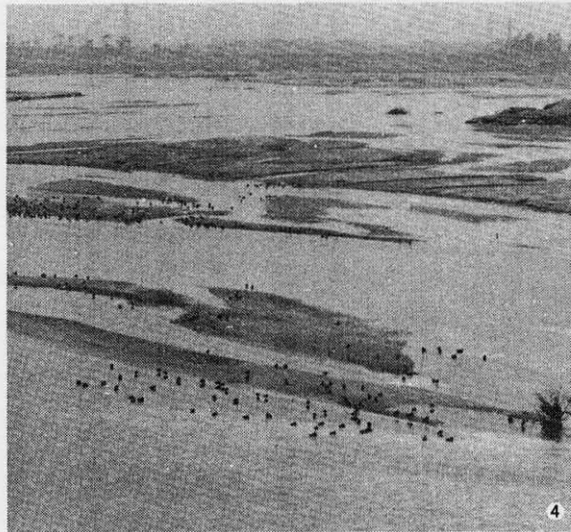
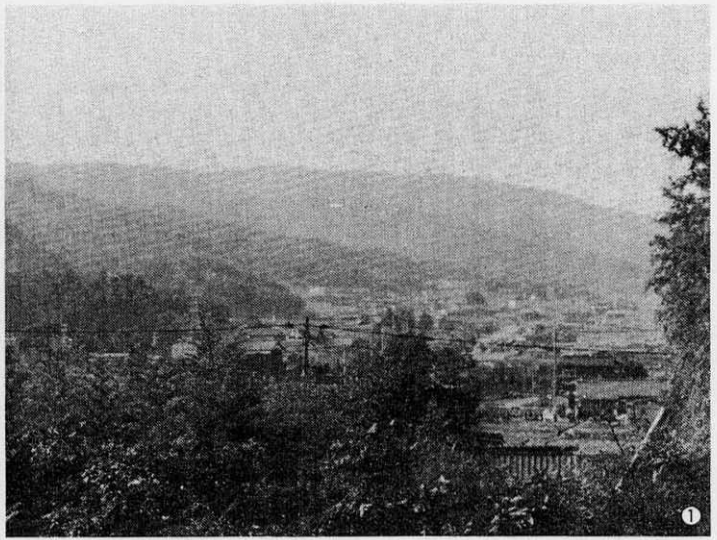
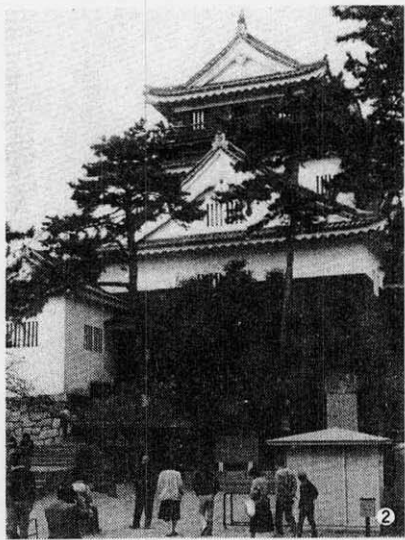
ベスト1は矢作川。三河の名の語源となった母なる矢作川の清流は、古今を通じて市民の心の奥深くに流れているのだろう。乙川は菅生川、大平川、男川と、土地によって異なった名称で歌によみこまれている。

歌詞の中の山・川の比率はほぼ半々。そして、多くの校歌が一番に山を、二番以下に川をよみこんでいるのは興味深い。山は朝。慈愛あふれる心で見下ろす山には希望あふれる未来を。川は夕。清く澄んだ心を映す鏡。豊かな心と永遠の平和を呼びかけているものが多い。

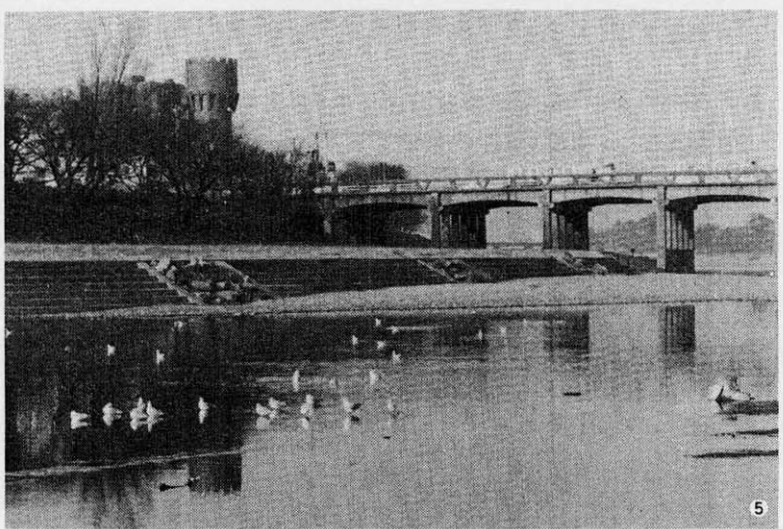
岡崎城・竜城も多くの校歌によみこまれ、山と同様子どもたちを見守る慈父に例えてあるのもうなずける。

ぴちぴちはねる若鮎、一面の菜の花、地域に特色のある風物をよみこんだ詩も多い。いずれおとらぬ秀作ぞろいに、改めて感動をおぼえた。





- ① 市の南にびょうぶの如く連なる桑谷連峰。舞木から羽栗の谷を通して見た桑谷山の朝。
- ② 家康ブームに乗って日曜日には観光客でにぎわう岡崎城。校章にも竜をあしらっている学校が多い。
- ③ 春は山桜、秋は紅葉に彩られる村積山。花園山と呼ばれるほど端麗な谷姿には、だれも心をひかれる。
- ④ 市を南北に貫き流れる矢作の清流。六ツ美の里をやがて大平洋へ流れ下る矢作川の夕映え。
- ⑤ 本宮山を源流に、古来からいろいろな名前で親しまれてきた乙川。川面には水鳥が無心にたわむれる。



## ● 個人研究の部

## 57年度教育研究論文入選者

## 最優秀賞

氏名	学校名	教科・領域	研究主題
石原 比朗志	美合小	道徳	生活を見つめ見かえす道徳指導
山内 博史	葵中	社会	生徒が自ら考え調べ解決する授業の創造

応募総数 436

小学校	個人 268	中学校	個人 80
	共同 50		共同 38

## 優秀賞

鈴木 ゆき子	梅園小	国語	私の作文指導
加藤 由美子	六名小	国語	読む楽しさと書く喜びと
小栗 春枝	愛宕小	国語	確かな表現力をめざす作文指導
山田 穂子	六ツ美中	国語	表現力を高める作文指導
桑木 富士子	美合小	社会	考えを追求する子どもを求めて
平野 有行	細川小	社会	身近な事象を自ら調べ磨き合い意味追求をはかる学習指導
山田 一夫	矢作西小	社会	直接体験を生かしたわかる授業づくり
柴田 輝夫	岩津小	算数	ひとりひとりの考えを生かした深める算数学習
長谷川 雄一	岩津小	算数	一人ひとりの子どもがかわり持ち、異同思考の場で高められていく算数指導
近藤 克子	矢作北小	算数	楽しくわかる授業を求めて
太田 恭子	矢作南小	算数	自ら考え、深め合う子をめざして
小倉 敏幸	梅園小	理科	問題意識の連続する理科学習
平岩 浩文	広幡小	理科	自然認識を深める理科の授業
千賀 三枝子	常盤小	理科	ひとりひとりの発想を生かした理科学習
林 和泉	恵田小	音楽	複式学級における音楽学習のとりくみ
松岡 育代	六ツ美北小	音楽	創造性豊かな表現をめざして
菅沼 和子	細川小	図工	絵画表現の基礎をつくる線描指導
鈴木 明	梅園小	体育	自らめあてを持って楽しく運動する子どもを育てる
安杖 康則	三島小	体育	児童が喜びを感じる体育学習
和田 美奈子	矢作東小	家庭	実践的・体験的な家庭科学学習の追求
内堀 博之	美合小	道徳	「できる子」をめざす道徳指導
山本 信幸	広幡小	特活	「思いやりの心」を育てる学級づくり
浅井 利夫	生平小	特活	ふるさとを育てる郷土クラブの指導
鈴木 明美	竜美丘小	特殊	より豊かな言語発達をめざして
伊藤 友隆	大樹寺小	視聴覚	より深い学習効果をめざすテレビ放送の活用
竹内 順子	細川小	保健	性教育への扉をたたいて
榊原 豊	生平小	全般	野鳥を知り、野鳥を守って自然に目を向けさせる教育
倉橋 正博	葵中	国語	自律と感動を高めるよりよい指導を求めて
岡田 豊	六ツ美中	国語	形成的評価をとり入れた授業の実践
山本 禎夫	矢作北中	理科	理科がらいな生徒の増大を防ぐ電気の学習を求めて
早川 円浄	常盤中	美術	郷土の自然から得られた素材を生かして
石原 博文	甲山中	技家	問題意識を大切にする授業過程
朝雄 伸子	城北小	技家	思考力・実践力を育てる食物学習
高木 和広	美川中	視聴覚	生徒の見方・考え方の変容を求めて
成田 邦彦	六ツ美中	全般	確かな学校教育を進めるために

## 佳作

武藤 寿実子	男川小	塚本 恭子	矢作南小
佐野 りり子	美合小	藤田 由美	六ツ美北小
島田 成子	緑丘小	内田 ひろみ	六名小
槽谷 京子	福岡小	八田 敏公	連尺小
野勢 裕子	福岡小	飯見 紀男	梅園小
後藤 弘	常盤東小	金沢 君代	緑丘小
松井 伸市	常盤小	鈴木 勘三	奥殿小
渡辺 智枝	矢作北小	竹内 文子	城南小
足立 道子	城南小	二村 昌子	矢作北小
海藤 正子	男川小	梅村 京子	美合小
外山 加津子	矢作北小	岡田 富子	羽根小
鈴木 金利	梅園小	杉山 功	緑丘小
福応 謙一	梅園小	赤崎 晴彦	六名小
佐々木 公麿	梅園小	奥野 真二	細川小
嶋崎 勝	広幡小	高橋 啓三	大樹寺小
神尾 昌彦	広幡小	岡本 知子	大樹寺小
菅沼 健	藤川小	三木 世紫枝	広幡小
小栗 正貴	常盤小	石川 昌宏	男川小
尾藤 広行	奥殿小	小林 治	竜海中
鈴木 武	細川小	田境 行孝	福岡中
柴田 弘子	大樹寺小	金丸 直子	甲山中
村松 裕	羽根小	高須 亮平	常盤中
佐野 恵広	広幡小	菅沼 国雄	南中
犬塚 尊夫	井田小	杉坂 美典	岩津中
中川 朗子	大門小	落合 敬子	矢作北中
牧 喜久雄	矢作東小	山本 光昭	竜海中
岡田 要	城南小	栗田 錦治	美川中
水野 昌孝	城南小	大久保 慎一	竜海中
清水 英子	竜美丘小	加藤 忠彦	美川中
宮崎 昌子	井田小	山本 悟	東海中
加藤 直男	愛宕小	小波 穂子	常盤中
渥美 直美子	竜谷小	渡辺 総意	矢作北中
矢田 敏行	藤川小	加藤 博史	六ツ美中
松井 幸彦	六ツ美北小	鈴木 祐男	竜海中
天野 道晴	六ツ美北小		

## ● 共同研究の部

## 最優秀賞

岩津小現職教育部	岩津小	算数	基本的事項の定着をめざした算数教育
矢作北中数学部	矢作北中	数学	わかる学習を求めて

## 優秀賞

1年部会	連尺小	理科	見つけ見ぬく力を育てる学習指導の研究
研究推進委員会	岡崎小	音楽	喜びを高め合う音楽集会の実践
現職教育部	秦梨小	特活	しなやかな体づくりをめざした攻めの安全教育
1年部会	根石小	図書	入門期の読書指導
現職教育部	常盤南小	全般	郷土に根ざした学校林活動の実践
国語部	岩津中	国語	認め合い励まし合い意欲ある学習をめざして
社会科部	東海中	社会	問題意識を育てる授業づくり
川瀬哲夫・佐宗正義	美川中	理科	生徒が自ら発表し、考えを深め探究する理科学習
研究推進部	竜海中	全般	わかる学習指導の実践研究

## 佳作

2年部会	福岡小	国語部	葵中
算数部	常盤小	数学部	南中
合津鏡子・中根麻子	常盤小	数学部	葵中
安藤延弘・岩瀬剛次	岩津小	音楽部	美川中
音楽部	梅園小	体育部	東海中
中学年部会	城南小	英語部	矢作北中
国語部	常盤小	みどりの地球研究部	美川中
理解指導研究部	本宿小	現職教育部	竜海中

一つの感動が

福岡小 依馬 直子

こずえさん、おめでとう。  
泣けるほどうれしうだろうなあ。  
ふつうの人の  
二十倍も三十倍も、  
喜びや幸せを感じるって  
言ってたこずえさん。  
きようは、  
三十倍、四十倍にも  
感じたらんどうなあ。  
こずえさん、元気でいてよ。

一月十五日、吉森こずえさんの結婚式の記事を新聞で読んだ藤嶋孝志が書いた詩である。他にも十名の子が同様の詩を書いた。ニュースを注意深く見てくれていたことがうれしかった。しかし、それ以上に心を打たれたのは、他人の喜びを自分のことのように感じている彼らのやさしい心づかいであった。

十月二十八日、「旅立とう今二十歳の青春を見て」という詩の鑑賞指導をした際、詩のもとなつたビデオを見せた。

子どもたちは、サリドマイド障害で両腕を失いながらも、たくましく生きるこずえさんに、自分とは異なる心を見つけ、涙

を浮かべるほどの感動を受けて、詩の鑑賞を終わった。

ところが、ビデオの中でこずえさんが書いていた「旅立とういま」という本が読みたいが、本屋さんにならぬから、どうしたらよいでしようという思いがけない要求が出たため、書店に注文しようとして希望調べをし、学級の半数以上が拳手をしたのである。予想外の読書活動に発展したわけである。

その後、手を使わなくても運転できる自動車ができたニュースを知った時、子どもたちは、全国のサリドマイド児が喜んでゐるよ。お世話になつた外国の友だちを招いてドライブもできるよ。という主旨の詩を書いてもつてきた。



そして、いま、孝志だけでなく、幾人かの子が結婚を祝つており、学級全体がにこにこした笑顔にあふれている。

詩の鑑賞を契機とした感動がその場限りに終わらず生きつづけていることが、たまたまなくうれしい。深い感動がこの子たちを人間的に大きく成長させたのだらう。感動のもつ発展性に改めて感慨を深くした一駒だった。

教育日々



手ごたえのあつた授業

城北中 光田 啓美

「教材を変えてみよう。」  
こう決意したのは、八月の初め、東京の研修から帰つた後だった。

音楽を心で捉えることがどれほど難しいことか。それを考えると、果たして「月の光」でよいのだろうか、と思えてきた。  
授業になると、なぜか黙り込んでしまふことの多い中二の生

徒たち。素直に感想を発表してくれるだろうか。

「光田さん、大丈夫？早く指導案を作らなさいだめよ。」

諸先生方のご心配の中で、公開授業の構想が固まつたのは十月も半ば過ぎ、全校の音楽集会のことにも気にかかる頃であった。生徒が興味をもつて聴くことができるようにと、シンセサイザーのレコードを使用したり、アンサンブルにふさわしい座席を考えたりもした。

文化祭の準備で忙しい美術の先生と一緒に寒い体育館で、夜の十二時を過ぎるまでピアノに向かう日が続いた。先輩の加藤先生のご助言とご指導をいただきながらも、新卒二年目の私にとって、全音研発表会までは、まさに茨の道の毎日であった。

こうして迎えた十一月十九日、公開授業も無事終わり、音楽集会の最後の全校合唱である。  
「時にはなぜか大空に・・・」と、歌いながら体育館を出て行く生徒達の後姿を目で追う時、初めて、

「ああ、ほんとうによく歌ってくれた。これでやっと終わったんだ。」  
後はただ目頭が熱くなるばかりであった。

翌日、公開授業を行ったクラス担任の先生に、生活ノートを手渡された。

・「展覧会の絵」は、すごくいい曲だなあと思いました。光田先生のひいてくれたピアノも、とてもすきでした。

S子  
・光田先生のピアノがすごく良かったです。私たちの方も、どこかの先生が、「上手だったわね」と、言ってくれました。

H子  
・全校合唱の「大地讃頌」は、生涯忘れることのできない大合唱でした。K子

この生徒たちの言葉が、私の全音研の総決算であった。





# 一年のあゆみ



▶家康ブームのメッカ「三河武士のやかた家康館」華やかにオープン。(十一月三日)

4・1	鈴木正弘教育長勇退のあと新教育長に横井滋氏が就任 新規採用教員一三四名を迎えて辞令伝達式 3・25から三日間少年自然の家で新任教師の集い 現職教育委員会総会 矢作北中
4・16	第九回岡崎子どもまつり 菅生川原
5・2	大樹寺小・矢作北中第八回松下視聴覚教育助成校に 根石小・美川中全日本学校環境緑化コンクールで特選 秦梨小研究発表会
5・8	第二十六回岡崎市中学校総合体育大会(水泳は6・13)
5・23	甲山中研究発表会
6・1	河合中研究発表会
6・6	市制施行六十六周年記念式典で教職関係十一名が表彰
6・16	第三十五回岡崎市中学校市長杯総合体育大会開始
6・18	昭和五十七年度岡崎市小学校球技大会開始
6・21	「明日の岡崎を考える」第九回岡崎市民大学開催
7・1	①7・25 国弘 正雄氏「国際化への対応」
7・25	②8・1 寺内 大吉氏「人生のカンどころ」
7・21	③8・8 長倉 三郎氏「分子の世界」
7・1	④8・15 豊田 俊雄氏「アジア、アフリカから 日本を想う」
7・1	⑤8・29 富沢 宏哉氏「審判員からみたプロ野球」
7・1	⑥9・19 木村 治美氏「心の時代、ことばの時代」
7・30	第二十回岡崎市小学校水泳競技大会 井田小
8・6	現職教育各部夏季実技講習会開始
8・6	岡崎市美術館開館十周年記念展「郷土ゆかりの日本画 家たち」開催 8・22まで
8・12	第十回岡崎市生徒模擬市議会 市役所
8・16	竜美丘小女子バレー部・南中女子バレー部全国大会へ
9・19	第十五回岡崎市中学校新人総合体育大会開始
9・21	城北中研究発表会
9・23	第二十五回吹奏楽祭 市民会館
9・28	大樹寺小研究発表会
9・29	第三十二回岡崎市教育研究集会 竜美丘小・南中
10・8	美合小研究発表会



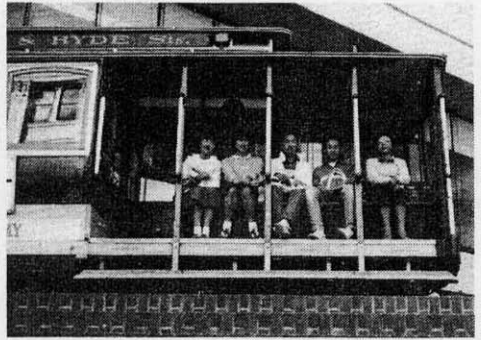
①「世界子ども美術博物館」の資料収集活動、昭和五十九年のオープンを目ざし着々と進む。各界各層からのあたたかい支援・厚意に感謝。  
②第十回教育文化賞授賞式、磯谷・加藤・岩瀬の三氏と三河万歳保存会花園連、市算数・数学部の二団体が受賞。(十月三十日)  
③全日音研全国大会が岡崎で盛大に開かれた。(十一月十九日)







◀各界の第一人者を招いて開かれた第九回岡崎市民大学。



▶第三回中学生親善使節団アメリカへ(十月十三日～二十二日)

2	2	1	1	1	1	1	12	12	11	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10	10																		
11	28	23	22	21	19	25	6	25	24	19	17	14	3	30	29	26	24	19	13	10	10	10																		
第九回中学校サッカー競技大会	「おかざきのみかしばなし」発刊	根石小研究発表会	第二十四回岡崎市民駅伝競走大会	生徒会海外派遣報告会	第二十四回岡崎市民駅伝競走大会	岩津小研究発表会	算数・数学自作教具展	第二十六回小中学校書き初め展	第九回冬季研修会	第九回冬季研修会	リ映画「石匠」が優秀賞、ビデオ作品も入選	昭和五十七年度全国自作視聴覚教材コンクールで八ミリ	市学校保健大会で健康優良・よい歯の生徒表彰	城南小	東海中研究発表会	川中・城北中・市民会館	全日音研全国大会	梅園小・岡崎小・六ツ美北小・美	矢作北中研究発表会	第十回岡崎のハーモニー	菅生川原	「三河武士のやかた家康館」オープン	第十九回造形おかざきっ子展	常盤南小県学校林活動コンクール特選	男川小県学校環境緑化コンクール県知事賞	第十回教育文化賞授賞式	市消防本部	本宿小研究発表会	第二十四回英語スピーチフェスティバル	太陽の城	第二十一回岡崎市小学校陸上競技大会	県営グラウンド	羽根小研究発表会	アメリカへ第三回中学生親善使節団(生徒4・教師2)	第二十九回理科作品展	六名小	第九回中学校技術・家庭科作品展	市体育館	第二十九回市民体育祭	六名公園



5



4



6

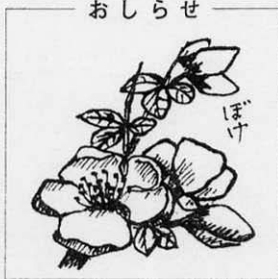
④びつくりするようなアイデアにあふれた算数・数学自作教員展。(一月二十一日・岩津小)

⑤岡崎の先生方が海外へ教育事情視察研修旅行を企画され、ヨーロッパ、中国、韓国などへ大ぜい出かけられた。(写真は中国班)

⑥「明日の教育を考える」をテーマに、第九回冬季研修会が少年自然の家で開かれた。

## 昭和57年度研究発表校の研究動向一覽表

発表月日	校名	分野	研究主題	研究概要	研究資料(研究者・講師・助言者)
6月1日	秦梨小学校	安全教育	「精いっぱいやりぬく逞しい子」をめざす ——健康安全教育的——	・積極的に身体を鍛え、体力、運動能力を高める。 ・腰背を立てさせ、精神の安全をはかり安全に行動できる力を伸ばす。	研究物「精いっぱいやりぬく逞しい子」をめざす健康安全教育的 教師の文集「草笛」 講師 杉浦 寿康先生
6月16日	甲山中学校	教育全般	自己の確立をめざす甲山教育課程	生徒が互いに計画を練り、活動する学級。意欲をもった学習活動。力を合わせてつくる学校環境と「やる気と思いやり」を育てる教育課程。	研究物「自己の確立をめざす甲山教育課程」 助言者 石川、中根、平井先生 講師 慶応大教授 村井 実先生
6月18日	河合中学校	教育一般	自ら汗する教育 ——生物環境保全活動を通して——	生物環境保全の諸活動を通して、生命の尊重・豊かな人間性を育て思いやりのあるたくましい実践力のある生徒の育成をめざした実践。	資料「自ら汗する教育」 講師 岡崎国立共同研究機構 基礎生物学研究所 近藤 孝男先生
9月21日	城北中学校	特別活動	自ら考え行動する生徒を育てる。 ——生徒活動の実践——	学級会活動・生徒会活動・クラブ活動の分野で、基本的な20のおさえを考え、それを柱として各自課題を持ち実践研究をすすめた。	研究物「自ら考え行動する生徒を育てる」 指導者 文部省視学官 堀 久先生
9月28日	大樹寺小	視聴覚	社会科・理科学習の深化をめざして ——効果的な視聴覚教材の活用——	放送教材・T P教材などの視聴覚教材のもつ現実性、具体性、説得力や資料性に啓発された子どもの見方考え方を育てる指導。	研究物「社会科・理科学習の深化をめざして」 講師 国際教育交流センター所長 園 一彦先生
10月8日	美合小学校	作文・道徳・体験	やり・わかり・できる子の育成 ——作文・道徳・体験学習を通して——	感動と体験を重視した指導。 ・生活のみつめ感動をつづる作文。 ・感動を生かし実践に結びつく道徳。 ・できる子を育てる農園活動。	研究物「やり・わかり・できる子の育成」 助言者 県センター 遠山 彌先生 ほか4名
10月19日	羽根小学校	教育全般	楽しい学校給食をめざして ——素直に感謝できる子ども・温かい心の通う集団へ——	・楽しい学校給食の推進のため、他の教育活動の調和・充実を図る。 ・子供の自主活動の推進・感謝と思いやりのある子供の育成に努める。	研究物 楽しい学校給食をめざして 資料 指導案・給食1口指導 食事教室・羽根つ子の四季 講師 東京学芸大 鹿沼景揚先生
10月29日	本宿小学校	教育全般	ともに励まし合って伸びる子どもの育成 ——心のふれあいを求めて——	心身障害児理解推進校として、障害者に対する偏見のない正しい理解と認識をもたせるよう岡崎養護学校児童との交流活動の実践をはかった。	研究物「ともに励まし合って伸びる子どもの育成」 講師 蟹江町長 藤田 貞男先生 助言者 愛教大 池田 勝昭先生
11月19日	全日音研全国大会	音楽	ともに喜びを高め合う音楽指導 〔梅園小、岡崎小 六北小 美川中、城北中〕	・全日本音楽教育研究会小中学校部会全国大会愛知大会の会場校として公開授業、音楽集会、研究発表。 ・一人ひとりの子どもの音楽性を培い、豊かな表現力を育成する実践研究。授業研究の継続推進。 ・心のふれ合いと感動を基盤とした音楽活動の実践指導。	資料 授業展開案 助言者 浜松市立都田小学校長 森口喜有先生 三重県教育委員会指導主事 塩田芳男先生 愛知県教育センター主事 畔柳良一先生 愛知教育大学助教授 八木正一先生 岐阜県教育委員会主事 山田孝先生
11月24日	東海中学校	全教科	自ら考え、正しく判断する力を育てる。 ——問題意識をもつ授業づくり——	生徒理解を基底にした学習指導の在り方を追究。教科の姿を求めつつ教師の支援によって学習の成立と成就感を味わわせる授業方法の研究。	研究物「自ら考え正しく判断する力を育てる」 資料 「ふれあいの記」 講師 立教大学教授 上田薫先生
1月21日	岩津小学校	算数	基本的事項の定着をめざした算数教育 ——表現活動(操作、書く、対話)を通して——	基礎的・基本的定着をめざした反復練習、自己評価活動の実践。 確かな定着を図る表現活動の学習段階を設定した学習指導の実践。	研究物「基本的事項の定着をめざす算数教育」資料 基本的事項一覽表 講師 文部省伊藤聡朗先生 助言者 千葉大教授 杉岡司馬先生他5教授
1月28日	根石小学校	読書	望ましい読書指導 ——進んで読書し、自分の心を耕しつづける子の育成——	「本好きな子」をめざして5年間、20分間読書を中心とした実践研究。「親しむ」「深める」「広げる」読書の実践を通しての習慣化の育成。	研究物「望ましい読書指導」 講師 愛知教育大 甲斐 睦朗先生 大垣女短大 赤座 憲久先生 児童書研究会 三輪 哲先生



「おかざきのむかしばなし」刊行

よみがえる先祖の心

ふるさとの心を伝える「おかざきのむかしばなし」が、二月下旬に刊行された。カラーさし

絵つきの、市内三十八学区を代表する昔話が三千編掲載されている。

地方のこの種の出版物としては、内容・体裁ともにすぐれ、子供から大人まで家族そろって楽しめる読み物である。一話ごとにからさし絵が入り、漢字にはすべてにふりがなが付いているので、いっそう親しみもわく。

A5変型判

価格 九八〇円(予定)

第三十四回市民駅伝大会

(中学校の部・一月二十三日)

- ▽優勝 東海 ▽二位 岩津A
- ▽三位 城北 ▽四位 矢作A
- ▽五位 矢北 ▽六位 福岡A

「寄贈刊物・資料等」

◆図書館の現況 図書館部

B5 孔版印刷

◆通知票記載の手引 評価研究委員会

B4 二九ページ

◆広小三余 広幡小学校

A5 六二ページ

◆算数・数学指導の手引「アイ

デア集」(第三集) 算数・

数学部 A5 四八ページ

◆岡崎市小中学校校具展「出品

作品解説書」算数・数学部

B4 五二ページ

◆基本的事項の定着をめざした

算数教育 岩津小学校

B5 二二五ページ

▽優秀賞

大沢 孝光・城北中

梅村 真・福岡小

中村 訓子・常磐小

田島 直子・岩津中

稲垣 章・矢作中

▽優良賞九名▽努力賞三十八名

◆各種小中学生表彰

・朝日作文コンクール

大門小六年 藤江清子

・「我が家の交通安全」作文

岩津中一年 佐藤博子

・人権を理解する作品(習字)

矢作中一年 市川岸江

◆昭和五十八年度岡組役員

▽会計監査 岡安 石川

▽会計委員 石原 雅充・竜海中

▽婦人部長 近藤 敦代・甲山中

▽青年部長 塩沢 順治・岩津中

▽福対部長 勝田 秀明・矢作小

▽調査部長 鶴田紀美子・矢北中

▽教文部長 神原 正樹・本宿小

▽情宣部長 佐々木俊輔・根石小

▽組織部長 金澤 強・南中

▽書記長 清水 淳吉・美川中

▽書記次長 内堀 博之・美合小

▽委員長 大須賀明彦・葵中

▽副委員長 平野 有行・細川小

▽委員 長 須賀明彦・葵中

▽委員 長 須賀明彦・葵中

▽委員 長 須賀明彦・葵中

▽委員 長 須賀明彦・葵中

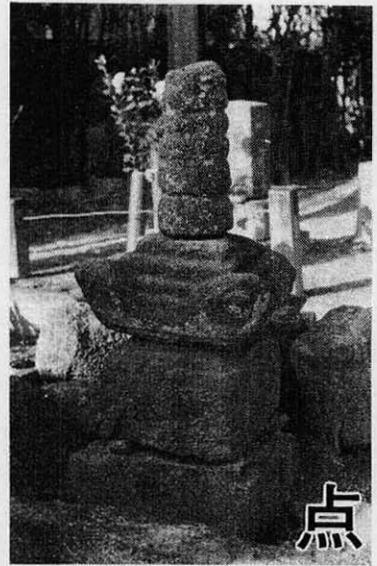
▽委員 長 須賀明彦・葵中

昭和57年度 岡崎市中学校陸上・水泳最高記録 ○印は新記録

性	種目	氏名	校名	記録	種目	氏名	校名	記録
男	1年 100m	杉浦 康秀	城北	12" 2	100 白	伊藤 佳樹	矢作	1' 00" 81
	100m	中村 吉男	城北	11" 4	200 白	伊藤 佳樹	矢作	2' 13" 34
	200m	松井 昭宏	六ツ美	22" 8	400 白	深津 伸夫	附属	4' 48" 0
	400m	松井 昭宏	六ツ美	○ 52" 3	100 平	橋本 光弘	竜海	1' 10" 25
	800m	西村 仁	南	2' 07" 5	200 平	橋本 光弘	竜海	2' 33" 64
	1・2年 1500m	大塚 崇志	美川	○ 4' 18" 2	100 背	鈴木 正憲	南	1' 10" 87
	3000m	大塚 崇志	美川	9' 37" 8	200 背	鈴木 正憲	南	2' 35" 12
	110mH	藪田 昌弘	附属	○ 15" 6	100 バタ	柳野 圭司	甲山	1' 02" 83
	4 × 200 mR	藤原伊奈・平井松井	六ツ美	○ 1' 35" 2	200 バタ	柳野 圭司	甲山	2' 16" 50
	低4 × 100 mR	山本杉浦・藤井平山	美川	49" 3	200 個	茶山 克行	矢作	2' 30" 7
女	走 幅 跳	杉浦 宏幸	美川	○ 6m 56	400 混R	桑山 裕子・伊藤 裕子	矢作	4' 36" 08
	走 高 跳	戸川 敦	六ツ美	1m 84	400 R	柳野 奈良・石原 久保	甲山	4' 05" 00
	棒 高 跳	足立 芳司	美川	○ 3m 30	1年 100m	谷山 和美	甲山	13" 2
	砲 丸 投	岡部 勝宏	東海	14m 54	100m	佐野 順子	岩津	12" 6
	三種競技A	中村 吉男	城北	2748	200m	佐野 順子	岩津	○ 26" 7
	1年 100m	谷山 和美	甲山	13" 2	800m	服部多美子	竜海	2' 30" 8
	100m	佐野 順子	岩津	○ 26" 7	100mH	鈴木千恵子	矢作	16" 6
	200m	佐野 順子	岩津	○ 26" 7	4 × 100 mR	杉浦 平岩・石黒 中島	六ツ美	○ 52" 0
	800m	服部多美子	竜海	2' 30" 8	低4 × 100 mR	山本貴・谷山 本貴	甲山	53" 8
	100mH	鈴木千恵子	矢作	16" 6	走 幅 跳	石黒 晶子	六ツ美	5m 09
4 × 100 mR	杉浦 平岩・石黒 中島	六ツ美	○ 52" 0	走 高 跳	松下 恭子	矢作	1m 55	
低4 × 100 mR	山本貴・谷山 本貴	甲山	53" 8	砲 丸 投	馬場有里恵	矢作	10m 93	
走 幅 跳	石黒 晶子	六ツ美	5m 09	三種競技A	佳山高美子	矢作	2355	
走 高 跳	松下 恭子	矢作	1m 55					
砲 丸 投	馬場有里恵	矢作	10m 93					
三種競技A	佳山高美子	矢作	2355					



# 松平信孝の墓



所在地—岡崎市上和田町北屋敷

上和田浄珠院は、幾本かの銀杏の大木の陰にひっそりと建っている。血で血を洗い、骨肉相あらそう生々しくあさましい戦国時代の歴史を語りかけてくるようなたたずまいである。

本堂の隣に三河一向一揆ゆかりの太子堂のわきをぬけると墓地になる。墓地の一番奥、立派な軍人の墓の隣に、半ばこわれかけ、荒れるにまかせた風の宝篋印塔と思しき墓標が一つ、それが悲劇の武将、三ツ木城主松平藏人信孝の墓である。

信孝は松平八代広忠の叔父である。守山くずれで父清康を失い危機に陥った松平家を受け継

いだ若い広忠を補佐し数々の功績を上げた信孝だが、魔がさしたのか、時流に乗って力をたくわえ宗家をしのぐほどの勢力を持つようになり、ついには主君で甥の広忠に弓を引く羽目に陥るのである。

天文十七年、明大寺耳取縄手の戦いに岡崎勢の流れ矢にあたって無念討死をした信孝のなきがらは浄珠院四代利空上人によってここに葬られたという。

世は家康ブーム。しかし信孝の墓は歴史の流れから抹殺されたかの如く、今墓地のかたすみにひそやかに立つ。一抹のあわれを感じ思わず手を合わせた。

・カ  
ツ  
ト  
山中小

滋野井 貴子

## この本を

日本文化の系譜	中尾 佐助 上山 春平 徳間書店 1,500円
漢字再発見	鈴木 修次 PHP 500円
私の茶の間	沢村 貞子 光文社 950円
カバ園長の子育て100点満点	西山登志雄 知道出版 980円
大森貝塚	E. S. モース 岩波書店 250円
クレヨンを塗った地蔵	森崎 和江 北井 一夫 角川書店 1,900円
島で暮す	灰谷健次郎 理論社 980円
天使	遠藤 周作 角川書店 980円
史談 家康の周囲	山岡 荘八 毎日新聞社 980円
ランニングと脳	久保田 競 朝倉書店 1,800円

思い出の梅の木に今年も花が咲いた。二十数年前、中学校の卒業記念にもらった木だ。音楽室から仰げば尊しの声が聞こえる頃になると、庭の片隅でぶこつな枝に小さな花をつける。期待と不安のまじった生徒のまなざしが胸にちらつく時に梅の花をみると心がなごみ、ふと中学生時代を思い出すことがある。

新鮮味のある授業、行事でありたいと願いつつ……毎日毎日が過ぎていく。一方、子どもたちは日一日と成長し、変化している。

子どもたちが進歩しているのに、私たちは果たしてどうだろうか。マンネリの指導法や教具で授業をしてはいないだろうか。自他ともに再考したいものである。



「あかりをつけましょ雪洞に、お花をあげましょ桃の花……」

編集会議で疲れて帰ったわたしに、お雛さまを飾ってくれと娘がせがむ。二人で力を合せて完成。桃の花を飾り、雪洞に灯をつける。お内裏さまとお雛さまがやさしくほほえみかける。かたわらの娘はすやすやと夢の国……。

澄んだ水、霞む山並み。

市内の山川の由来や逸話、生活との結びつきを綴った「ふるさとの山河」が今月で連載を終える。執筆をお願いした社会科部の先生方に深く感謝する。

次号から、その道何十年の職人肌の人たちの人生観を聞き綴るふるさとシリーズ第四弾「この人に聞く」。乞う御期待。